

一身二生

校長 駒田 勝

「4番サード長嶋、背番号3」

スピーカーから流れる場内アナウンスの声色や声量までもが、今も鮮明に蘇る。昭和39(1964)年生まれの私の年代ぐらいまでが、現役選手として活躍する彼を知る世代だろうか。年平均10%もの経済成長を続けた昭和の高度経済成長期を代表するスターの一人が、奇しくも昭和100年の節目の年に逝去されたことは誠に寂しい限りです。ご冥福をお祈りします。

ところで、長嶋が巨人に入団をした昭和33(1958)年は、即席麺が世界で初めて発売された年だそうです。この年の8月に日清食品株式会社から世界初の即席麺「チキンラーメン」が発売されました。それから66年を経た2024年には、即席麺の世界総需要は約1,231億食にも達し、過去最高を更新したと世界ラーメン協会は伝えています。即席麺は、今や世界の食を支えるグローバルフードにまで成長しました。

実は、世界初の即席麺の発売から遅れることわずか2ヶ月、ここ龍野の地で世界2番目の即席麺が製造・販売されていたことを生徒の皆さんは知っていましたか。発売したのは龍高のすぐ近くに本社を置く伊藤製粉製麺株式会社(現イトメン株式会社)。いち早く即席麺の研究・開発に着手し、即席中華麺「トンボラーメン」を昭和33(1958)年10月に発売しました。世界を代表するグローバルフードに育った即席麺が、龍野の地でも先行研究・開発され、商品化されていたとは、なんとも誇らしい限りです。因みに、このイトメン株式会社の代表取締役社長の伊藤充弘氏(龍野高校26回生)は、本校の同窓会長です。入学式や卒業式、体育大会等々の様々な学校行事にも来賓としてご臨席を賜っています。

さて、話は変わりますが、令和7年4月19日(土)の朝日新聞「天声人語」は、この日が「地図の日」であることにちなみ、伊能忠敬(1745~1818)を取り上げていました。生徒の皆さんも知ってのとおり、忠敬は日本全国を測量して歩き、実測による精緻な日本地図を作りあげる偉業を成し遂げた偉人です。記事によると20万分の1の地形図の一部では、「昭和」の時代まで彼の作成した地図が資料として活用されていたとのこと。唯々驚くばかりです。でも、そんな彼の人生を知るともっと驚きます。

そもそも忠敬は、和算や天文暦学、測量の専門家ではなく、

18歳で婿養子となった伊能家の当主として、また村の名主として50歳まで働きました。当時としては、もはや人生の晩年を迎えた忠敬でしたが、余生を楽隠居することなく、かねてより興味・関心のあった天文暦学を学ぶために江戸へ出て、幕府天文方であった高橋至時に弟子入りをします。ここで猛勉強したうえで、55歳から全国測量をスタートさせました。でも、彼は精緻な地図を作りたいがために弟子入りしたのでありません。師匠は要職にある幕府天文方。その仕事は正確な暦作りです。「地球の大きさや緯度が分からなければ正確な暦はできない」とする師匠の意を受けた忠敬は、緯度1度の正確な距離を測るために、江戸から蝦夷の地までの測量を行いました。因みに、地図作りは幕府から測量許可を得るための後付けの理由だったそうです。ところが、作成された地図があまりにも精巧であったため、後に将軍の目にもとまり、第5次測量以降は幕府の御用事業となったそうです。最終的には、およそ4万Km、地球1周分も歩いたそうですから、これまた驚きです。彼の足跡を知れば知るほど、何やら目に見えない大きな力があり、地図作りが運命づけられていた、そんな「天命」にも似たものを感じさせるから不思議です。

「一身にして二生を経る」とは福沢諭吉の言葉ですが、人生100年時代を生きる皆さんは、変化の激しい予測困難な時代の中であって、忠敬以上の学び直しを求められるかもしれません。夢ある豊かな人生を歩むためにも、今を大切にし、幅広い教養と主体的に学び続ける力を養っていただきたいものです。

忠敬は言います。「人は夢を持ち前へ歩み続ける限り、余生はいらない」と。また、「夢は叶うか叶わないかではなく、追うか追わないか」だと。